合併に向け職員交流

大垣信金と西濃信金 関ヶ原でウオーキング



ウオーキングで交流を深める大垣信用金庫と西濃信用金庫の職員＝関ケ原町関ケ原

来年1月の合併に向けて準備を進める、大垣信用金庫と西濃信用金庫は30日、関ケ原町の関ケ原合戦の史跡を巡る合同ウオーキングを同町関ケ原の関ケ原ふれあいセンターを発着点に開いた。職員同士が交流を深め、地域の観光資源の魅力を再確認した。

大垣信用金庫の424人、西濃信用金庫の116人が参加。女性職員には、両金庫の名前が入った青色の髪留めのシュシュが配布され、絆の象徴として身に着けて歩いた。

開会式では、栗田順公大垣信用金庫理事長が「一人でも多くの人と交流し、合併に向けて心を一つにしてほしい」、大庭忠明西濃信用金庫理事長は「高いレベルのサービスが提供できるよう、一致団結して知恵を出し合ってほしい」とあいさつ。関ケ原鉄砲隊の大砲を合図に、関ケ原太鼓保存会の演奏に見送られて出発した。

職員は、武将の陣跡などを巡る1周約7キロのコースを二手に分かれて散策し、途中の旧関ケ原北小学校で合流してクイズなども楽しんだ。（土屋健一）

無断複製・転載を禁じます